

# 20世紀前半の外交論壇と『外交時報』

報告者：伊藤信哉（松山大学法学部助教授）

## はじめに

- ◇ 20世紀前半における『外交時報』の位置づけ：「外交論壇」の中心的存在  
「有力なる外交問題評論誌」「『外交時報』の影響力を高めた第一の原因は、その広範な寄稿者の陣容であった…執筆者は、学、政、財、官、軍及び評論の各界を代表し、彼らの見解も多彩で、所謂左翼を除く、自由、保守の両面にわたっていた」（岡本俊平「日本知識人の米中関係観」細谷千博・齋藤真編『ワシントン体制と日米関係』東京大学出版会、259頁）  
→現職の総理大臣（原敬）をはじめ、錚々たる人物が同誌に寄稿
  
- ◇ 1898年2月に創刊され、1945年4月の休刊までに111巻（956号）を発行した  
→ Foreign Affairs（1922年創刊）より古い雑誌  
cf. 戦後は第1期：950号（1952.11）－952号（1953.1）※巻号が遡つてゐる  
第2期：953号（1958.8）－1233号（1986.3）  
第3期：1234号（1987.1）－1351号（1998.9）
  
- ◇ 1930（昭和5）年の『外交時報』／月2回刊で24号5,322頁  
→ 類似誌を凌駕し、総合雑誌すら上廻るボリューム  
『国際知識』（国際聯盟協会）：12号1,617頁／『国際法外交雑誌』（国際法学会）：10号865頁  
『中央公論』：12号3,766頁（本編）  
cf. 2000年の類似誌：『国際問題』12号1,072頁／『世界週報』49号3,968頁
  
- ◇ 他方、同誌の詳細については、今日ではほとんど知られてゐない  
→ 出版社（外交時報社）そのものの流転が大きな原因
  
- ◇ 今回の発表の趣旨：総目録編纂にあたり、これまで解明できたことの中間報告

## 『外交時報』に関する基礎的事実

- ◇ 出版時期と巻号関係  
1巻12号：1～14巻（1898年2月～1911年末・月刊）※1911年は変則  
1巻12号：15巻～48巻（1928年末まで・月2回刊）  
1巻6号：49巻～109巻（1944年3月末まで・月2回刊）  
1巻12号：110／111巻（1944年4月～45年4月：月刊）

◇経営者（編輯責任者）の変遷：重要なのは有賀長雄と半沢玉城

①有賀長雄（1898.2～1911.11）

埴原正直：1〔1〕～1〔10〕：1898.02～1898.11

桑田豊蔵：1〔11〕～2〔16/17〕：1898.12～1899.5

田中唯一郎：2〔18〕～14〔167〕：1899.7～

②大庭景秋（1911.11～1914.4?）

田中唯一郎：14〔168〕：1911.11

大庭景秋：14〔169〕：1911.11

倉沢理一：14〔170〕～：1911.12

③上原好雄（1914.5?～1920頃?）：19〔228〕＝1914.5?～?

倉沢理一：～21〔256〕：～1915.7.1

中川品次郎：22〔257〕～31〔370〕：1915.7.15～1920.4.1

④半沢玉城（1920頃?～1943.12?）

半沢：31〔371〕～108〔937〕：1920.4.15～1943.12.15

⑤小室誠（1943.12?～休刊）

半沢：109〔938〕～109〔939〕：1944.1.1～1945.4.1

小室：109〔940〕～111〔956〕：～1945.4.1

◇価格の改訂

1巻1号（1898年2月11日）定価10銭

1巻6号（1898年7月10日）定価12銭

3巻27号（1900年4月10日）定価15銭

11巻132号（1908年11月10日）：定価20銭

14巻168号（1911年11月1日）：定価20銭

23巻273号（1916年3月15日）：定価20銭

23巻274号（1916年4月1日）：定価25銭

30巻356号（1919年9月1日）：定価30銭

31巻369号（1920年3月15日）：定価35銭

32巻381号（1920年9月15日）：定価40銭

38巻452号（1923年9月1日）：定価50銭

92巻836号（1939年10月1日）：定価60銭

111巻956号（1945年4月1日）：定価60銭

※参考：中央公論の価格

1897年：10銭 1909年：20銭 1916年：30銭 1919年：40銭 1920年：50銭

1922年：80銭 1937年：1円 1941年：1円30銭 1942年：90銭 1944年：70～71銭

◇本社の移動

1巻1号（1898年2月11日）：東京豊玉郡戸塚村六百四拾七番地 東京専門学校内

14巻168号（1911年11月1日）：東京市赤坂区青山南町六丁目百拾六番地

18巻213号（1913年9月15日）：東京市赤坂区青山南町三丁目五十三番地

19 卷 228 号 (1914 年 5 月 1 日) : 東京市麴町区下二番町六十八番地  
42 卷 503 号 (1925 年 11 月 15 日) : 東京市麴町区下六番町四十九  
45 卷 541 号 (1927 年 6 月 15 日) : 東京市麴町区中六番町一四  
74 卷 730 号 (1935 年 5 月 1 日) : 丸ノ内・仲五号館 (東京会館東隣) に事務分室を設置  
82 卷 780 号 (1937 年 6 月 1 日) : 東京市麴町区丸ノ内三ノ十  
110 卷 946 号 (1944 年 6 月 1 日) : 東京都赤坂区田町五ノ一三  
111 卷 956 号 (1945 年 4 月 1 日) : 東京都赤坂区田町五ノ一三

#### ◇その他

- ・発禁は少なくとも 2 回…554 号 (1928 年 1 月 1 日) と 701 号 (1934 年 2 月 15 日)  
前者は朝鮮総督府による発禁/後者は小日山直登「日満関係再議定の急務」による
- ・出版部数は不明…ただし創刊号は 2,500 部 (+少なくとも 2 回増刷) であったらしい
- ・直接購読・予約購読が多数を占めていた?…販売形態も不詳
- ・外務省や軍部から援助を受けていたとの説あり (岡本、前掲論文、278 頁)
- ・1945 年 4 月号で休刊になった理由は空襲か?…戦後も外交時報社が存続したのは確か  
cf. 1946 年 6 月に世田谷区羽根木町 1714 に所在 (『昭和 21 年度版・最近出版社執筆者一覧』)
- ・外交時報社の規模や編集体制も断片的にしか判らず (北京や大連に支局があったらしい)

## 『外交時報』の生みの親と育ての親

#### ◇有賀長雄 (1860 - 1921) : 外交時報の生みの親

- ・国際法と外交史のみならず、芸術学・行政学・社会学など多方面で多大な業績を残す
- ・1882 年に東大文学部を卒業、84 年に東京専門学校講師 (国際法・外交史) となる
- ・東大文学部のほか、陸軍大学校、海軍大学校でも教鞭を取る
- ・早稲田大学内に「外交時報社」を置き、38 歳から 51 歳まで、当初はほぼ独力で雑誌を編輯・経営 (1911 年まで) →署名論文・論説の数は 600 篇弱にのぼる
- ・のちに袁世凱の法律顧問となり渡支、21 箇条問題では輿論の指弾を受ける

#### ◇半沢玉城 (1887 - 1953) : 外交時報の育ての親

- ・後述の米田實と並んで「著名だが来歴不詳の人物」
- ・日大を卒業したのち、東京日日新聞政治部記者・やまと新聞編輯局長・読売新聞編輯局長 (1925 年) などを経て外交時報社長となる (人事興信録などによるが、疑問あり)
- ・読売新聞では正力新社長の下で、編輯局の整理を断行、ただちに辞職している
- ・有賀との関係も不明だが、時系列的には下記の通り。

①有賀は 1920 年 7 月 15 日号まで寄稿 (実質的には 1915 年頃まで)、21 年 6 月死去

②半沢は 1920 年 4 月ごろに編集人、21 年 4 月から執筆 : 本格的には 20 年代後半

→両者は基本的に無関係とみてよいのでは?

- ・半沢が経営に関する以前、外交時報は常に経営難に直面してみた（米田論文による）が、1920年代以降、隆盛をきはめることとなる（半沢の経営手腕？）
- ・彼自身の署名論文・論説（約400篇）の分析については、前出の岡本俊平や五味俊樹（「自然淘汰の世界観」長谷川雄一編『大正期日本のアメリカ認識』慶応義塾大学出版会）による先駆的研究があるものの、ほぼ手つかずの状態 → 今後、緻密な研究の必要あり
- ・彼自身の生涯についても、研究の必要がある（とくに1920年以前と第2次大戦後）。

## 『外交時報』の寄稿者たち

### ◇全体的な傾向

- ・夙に指摘されるやうに、論者の立場も主張の内容も、非常に幅広いといふ印象
  - …ただし、刊行期間も50年近くに及び、また執筆者数も1500名に達するので、印象だけで判断するのは危険（細かい分析が必要）
- ・早稲田大学関係者と、東西朝日の関係者が目につく
  - ex. 最多寄稿者の米田實（202篇）と稲原勝治（213篇）は、それぞれ東西朝日の初代外報部長（ただし稲原は、もともと外交時報社の記者出身らしい）
  - cf. 有賀長雄：584 / 半沢玉城：396 / 煙山専太郎：273 / 稲原勝治：213 / 松宮春一郎：212  
米田実：202 （数字は概数）
- ・青柳篤恒（154）、立作太郎（182）、信夫淳平（55）、長野朗（18）、小川平吉（2）、中野武宮（0）、宮沢裕（0）、平沼騏一郎（0）、大木遠吉（0）、松村謙三（0）

### ◇著名な寄稿者

政治家：原敬「恒久平和の先決考案」（1921年9月15日号） 中野正剛「満蒙建立の精神」（1932年2月15日号） 山本条太郎「算盤に合はぬ日本の満蒙経営」（1927年12月1日号）  
 財界人：高橋是清「全世界の門戸解放」（1923年1月1日号） 井上準之助「国際的日本の建設」（1924年10月15日号）  
 外交官：幣原喜重郎「国際政局の推移と外交の根本義」（1925年10月1日号） 松岡洋右「日本の満洲観」（1929年12月15日号） 広田弘毅「江木翼氏の『四国条約と米国保留』を読む」（1922年6月15日号） cf. 著者が広田とあるのは誤り？（8月1日号・平河町人「江木氏の「四国條約再論」を読む」参照）  
 軍人：永田鉄山「満蒙問題感懐の一端」（1932年10月1日号） 東条英機「極東の新情勢に就て」（1933年12月15日号） 米内光政「露国革命の論理観」（1927年6月1日号） 山本五十六「海軍軍備無条約時代」（1937年2月15日号）

## をはりに

- ◇総目録編纂の重要性
- ◇現在の状況（執筆者索引と解題）：人名の読み、出版部数、外交時報社の詳細の解明
- ◇今後の展望：総目録を活用したアンソロジー（年代別・テーマ別主要論文集）の編纂  
外交時報自体に関する研究論文集 → 『外交時報』自体の復刊は？